

高校英語ディベート部、第10回鹿児島県中高校生英語プレゼンテーションコンテストで優勝

2024年12月9日、県内から8校が参加して、鹿児島純心女子短期大学にて標記コンテストが行われました。

今年のテーマは“How to Make Your Community Better: Food, Health and Medical Sector”すなわち「地域向上プロジェクト」-食、医療、健康分野-です。実際に自分たちが調査・研究したことや具体的な活動を含めてプレゼンテーションを行うことが求められました。

本校のメンバーは高2の金崎隼大君、渡聖斗君、ラック李亜武君、谷口昂星君です。彼らは、“Improve health care in Kagoshima’s rural communities”(鹿児島の地域医療をよりよいものにする)というテーマでプレゼンテーションを行い、みごとに優勝を勝ち取りました。

メンバーの一人であるラック李亜武君は「ずっと前から一生懸命準備してきたので、優勝はとても嬉しかった。自分たちの強みは「覇気」だと思っていて、当日も前に進む気持ちを持ち続け、主張を思い通りに展開でき、自分たちの強みを十分に生かせたと思う」と語ってくれました。

引率したオリバー先生(英語科)によれば「彼らのプレゼンテーションはとても説得力があった。彼らは難しい問題に果敢に立ち向かい、その解決策としてオリジナリティに富む提案をし、迫力あふれる内容を提示できた。スライドもシンプルで趣旨が伝わりやすく、英語の発音も構文も明瞭で、発表態度も堂々としていて、チームワークも素晴らしかった」とのことです。

